

2014年度 早稲田大学 社会科学部 国語解答例

(一)

〔出典〕宇野常寛『日本文化の論点』問題文中に省略、修正がある。

〔解答〕

問一	a	1	b	5	c	1	問二	2	
問三	A	2	B	3	C	4	問四	4	
問六	5		問七	2		問八	3・7	問五	3

(二)

〔出典〕鈴木日出男『源氏物語への道』問題文中に省略、記述の追加がある。

〔解答〕

問九	A	4	E	4	F	4	問十	4	問十一	2
問十二	B	3	C	5	D	2	G	5		
問十三	2		問十四	6		問十五	3			
問十六	②	1	④	5	(3↓1↓2↓5↓4)					

〔講評〕

(一)が現代文の評論、(二)が現古漢融合問題という形式は、昨年度と同じ。ただし、漢文については、昨年度は、独立した漢文の文章が出題され、設問も三題あったが、今年度は、書き下しの問題が一問のみとなり、分量的に減少し、問題も易しくなった。

(一)の現代文は、「現代サブカルチャー論」とでも言うべき文章で、具体的事象が多く採り上げられていて、一見取っつき易いが、もとの文章には固有名詞を中心に付けられている注釈が省略されている上に、作者の論旨もややとりにくいため、それほど解きやすい問題とは言えないだろう。特に、問四、問六、問八はやや難しい。

(二)は現古融合問題。作者の論旨自体も取りやすく、古文や漢文の問題も基本的な知識や単語、文法を問う問題なので、比較的解きやすい問題ではないだろうか。

2014年度 早稲田大学 社会科学部 英語解答例

I

1 - a 2 - b 3 - c 4 - c 5 - a 6 - e 7 - c
8 - a 9 - e 10 - b

II

1 - d 2 - c 3 - e 4 - c 5 - a 6 - b 7 - d
8 - b 9 - b 10 - b

III

1 - a, b, j 2 - c 3 - c 4 - d

IV

1 - c 2 - b 3 - b 4 - f, i 5 - a

V

1 - c, f, j 2 - a 3 - d 4 - b 5 - e 6 - c
7 - a 8 - e

※コメント

本年度も第 I 問に正誤問題が置かれている。文法や語法の基本ができていれば解ける問題がほとんどである。さらにショート・カンヴァーセッションが 5 題と長文が 3 題という構成も例年どおり。どれも現用の生(なま)の英語がほぼ使われており、語彙の難度が高い。